

---

[成果情報名] 促成栽培ナスの主要害虫に対するスワルスキーカブリダニの防除効果

[要約] 定植直後からスワルスキーカブリダニを50頭/m<sup>2</sup>の密度で1週間おきに3回放飼し、選択的薬剤と組み合わせることで、栽培期間を通してタバココナジラミやミナミキイロアザミウマ、チャノホコリダニを低密度に抑制できる。

[キーワード] ナス、スワルスキーカブリダニ、タバココナジラミ、ミナミキイロアザミウマ、IPM

[担当部署] 病害虫部・虫害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 野菜

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 生理生態

---

[背景・ねらい]

近年、促成栽培ナスで多発しているタバココナジラミバイオタイプQやミナミキイロアザミウマは、効果の高い薬剤が限られている。加えて、各種薬剤に対する感受性の低下もみられており、化学農薬だけでは防除が困難となっている。また、他にも様々な害虫が発生し、その防除に苦慮しており、促成栽培ナスではこれらの難防除害虫に対する総合的害虫管理（IPM）技術の構築が求められている。そこで、近年新しく見出された捕食性天敵スワルスキーカブリダニについて、促成栽培ナスの主要害虫に対する防除効果を明らかにする。

（要望機関名：生産流通課（H19））

[成果の内容・特徴]

1. 定植直後からスワルスキーカブリダニ（50頭/m<sup>2</sup>）を1週間間隔で3回放飼し、選択的薬剤と組み合わせることで、栽培期間を通してタバココナジラミとミナミキイロアザミウマを低密度に抑制できる（図1）。
2. スワルスキーカブリダニを放飼することで、化学薬剤を散布することなく、チャノホコリダニを長期間、低密度に抑制できる。
3. 施設栽培ナスの害虫防除の中核としてスワルスキーカブリダニを利用することで、殺虫剤の使用回数を1/3以下（放飼区：6成分回数、無放飼区：22成分回数）に削減できる（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. スワルスキーカブリダニを核とした促成栽培ナスの総合防除体系を構築するための基礎資料とする。
2. 害虫密度が高くなった場合やハダニ類、アブラムシ類、チョウ目害虫などが発生した場合には、スワルスキーカブリダニに影響の少ない選択的薬剤で防除する必要がある。
3. 他の施設野菜類（トマトを除く）における総合防除にも応用できる。

[具体的データ]

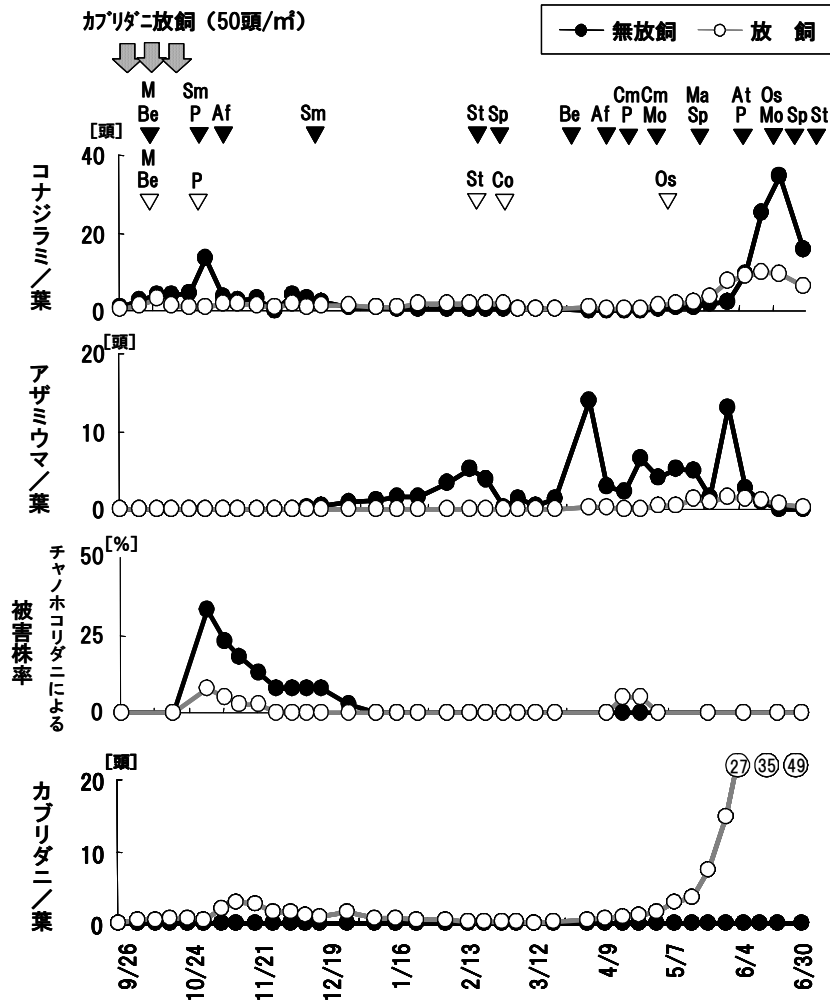


図1 促成栽培ナスの主要害虫に対するスワルスキーカブリダニの防除効果 (平成19年 場内試験)

- 注) 1. ▼と▽はそれぞれ無放飼区と放飼区における殺虫剤の散布を示す。  
 2. 試験したハウスは各60㎡。サイドには0.4mm目合いの防虫ネットを展開した。  
 また、冬季における暖房機の設定温度は12℃である。

【使用殺虫剤一覧】

Af ; アファーム乳剤 (ア, チャ, ハ, チョウ) At ; アタフロン乳剤 (ア, チョウ) Be ; ベストガード水溶剤 (コ, ア)  
 Cm ; コロマト乳剤 (ハ) Co ; コルト顆粒水和剤 (コ) M ; マイトコーネフロアブル (ハ)  
 Ma ; マッチ乳剤 (チョウ) Mo ; モスビラン水溶剤 (ア) Os ; オサダン水和剤25 (ハ, チャ)  
 P ; プレオフロアブル (ア, チョウ) Sm ; サンマイフロアブル (コ, チャ) Sp ; スビノエース顆粒水和剤 (ア, チョウ)  
 St ; スタークル顆粒水溶剤 (コ, ア)

※ (コ) : コナジラミ (ア) : アザミウマ (チャ) : チャノホコリタニ (ハ) : ハダニ (チョウ) : チョウ目害虫

[その他]

研究課題名 : ナス科施設野菜におけるタバココナジラミ新系統の防除技術の確立

予算区分 : 経常

研究期間 : 平成19年度 (平成18~20年)

研究担当者 : 森田茂樹、柳田裕紹、浦 広幸、石井貴明、嶽本弘之